

(4) 舞台芸術コース

教科科目	科目の特長	科目の目標
情報処理演習Ⅰ	コンピューターおよび情報機器・媒体についての知識を学び、その操作・活用ができるようになると共に文部科学省後援の「文書デザイン検定試験」などの上級検定試験に対応した授業を進める。	コンピューター活用能力を各種の情報処理検定試験合格をめざすことによって向上させる。
声優実習Ⅰ (ナレーション)	発声の基本から簡単な歌唱、ナレーションの台詞術を学ぶ。	声を生み出すのは自分の身体。ストレッチ体操をしっかりと行い、伸びやかで、豊かな声量をめざす。ニュース、ラジオCM、映像ナレーションの技術を身につける。
照明研究	上演芸術の歴史と舞台照明の基礎を学ぶことを通じて、舞台照明の表現方法自己表現を関連させて身につける。調光操作卓の基本的な操作方法を学ぶ。	舞台照明の基礎を理解・習得する。上演技術における照明の役割を理解し、自らの感性を磨き、自己表現に生かすことを目指す。
ヒップ・ホップ・ダンスⅠ	ダンスに必要な基礎力、筋力、表現力を身につける。	舞台で自己表現できるようにする。
ジャズダンスⅠ	毎回のレッスンでアップ、筋トレ、アイソレーションを行うことによってカラダをつくる。また、踊りに安定感を出すため、ブリエやターンなどのバレエの基礎を使って軸づくりもしていく。毎回のレッスンの後半では振り付けも行い、踊る楽しさ、流れの中で踊る気持ち良さも実感してもらう。それをミニテストとして発表する場も設ける。	カラダづくり、軸づくりに重点を置き、外側で踊るのではなく、内側から踊るという意識をはぐくみ、魅力的なダンサーになることをめざす。
音響研究	音響の基本、必要性、意義を学ぶ。	音の基礎を学び、自然の音と電気を使って増幅された音との違いを理解し、音響の役割が様々なシーンにおいての必要性を認識できるようにする。
ボイカル研究Ⅰ	普段意識しないで出している声を、歌うためのツールとして声を理解することがまず必要。その為に、声はどこから出してどこでコントロールすればいいのかを学習し、マイクを使用しての歌唱や、ステージングを工夫し魅せる歌い方を学ぶ。	歌うための声を出すことが特別なことではなく日常の習慣となること。そして、歌の背景を知りながら表現力を高める。
演技実習Ⅰ	発声・滑舌・間・リズム感・身体表現などを演劇ワークショップや演技を通じて学び、声・身体の鍛錬を一つ一つ積み重ねていく。	自らの肉体を通じて表現する(演じる)ために必要な感性・テクニックを習得する。そして、演技の基本を通して、コミュニケーション能力を育成する。